『県知事は小学生？』 を読んで

私もこんなふうになりたいなと思いました。

私はおじさん（県知事）となかよくなってみたいからです。

ゆみ

『県知事は小学生？』 を読んで

私はこの本を読んで、ふくざつでおもしろい話だと思いました。

私は県知事とたかのりの生活のちがいなどを見てると

とてもおもしろかったです。

けれど、県知事の評判の話などむずかしい、ふくざつな部分もありました。

でも、この本は県知事と小学生がわかり合っていたので

よかったなと思いました。

さき（ゆ）

『県知事は小学生？』 を読んで

『ぼくたち一人一人が声を上げれば、

それだって変わるのかもしれない。』

この言葉が心に残った。

人の考えを聞く・自分の考えを話すのが大事だと分かった。

ひまり

『県知事は小学生？』 を読んで

交通事故で、知事のたましいが中林くんの体の中に
入ってしまっていたことに、とてもおどろきました。
ねむるたびに、前へ出る人がかわることもびっくりしました。
わかなちゃんは、中林くんが最近変になっていると
気づいていたので、すごいなと思いました。

なつき

『県知事は小学生？』　を読んで

たかのりは、すごいと思いました。

なぜかというと、とても意地悪な県知事なのに、

のりうつってもあきらめずに、いっしょにくらしているからです。

わたしだったら、あきらめてしまうと思います。

はるか

『県知事は小学生？』　を読んで

評判の悪い県知事が、タカノリによって少しずつ

よくなろうとしていてよかったです。

自分だったら、タカノリのように県知事と二重人格になるのは

想像できないです。だからタカノリはすごいと思いました。

こと

『ずっと見つめていた』 を読んで

私はこの本を見たとき、「ずっと見つめていた」って
なんだろうと思いました。
でも読んでみたら、主人公越(えつ)の妹、つぐみちゃんが
育てていたアサガオの花がさくまで
ずーっと見つめていたということだと分かりました。

ひまり

『ずっと見つめていた』 を読んで

家族が、つぐみちゃんの化学物質過敏症を少しでもよくするために、
田舎へ移住していて、すごいなと思いました。
そして、引っこしてきたおかげで、つぐみちゃんの病気が少しずつ
よくなっていったので、良かった～と思いました。でも、散歩中にマムシに
かまれてしまい、一週間も入院していて、かわいそうでした。
越(えつ)くんは山梨に行っていたのに、急に帰ってきて、やさしいお兄ちゃんだと思いました。
最後には、あいさつもほぼ１００％してくれていて、
あさがおも咲いていたので良かったです。
このお話は心にグサッとくる話だったと私は思います。　なつき

『ずっと見つめていた』 を読んで

主人公の越（えつ）には、化学物質かびん症の妹がいます。

いなかにきて、越と妹のつぐみは、成長します。

越は、みらいを考えられる子になり、

つぐみは、心の強い子になりました。

わたしは、このあとの物語を読んでみたいと思いました。

二人はどんな大人になるのだろう・・・。

こころ

『ずっと見つめていた』 を読んで

わたしは、この本を読んで、山や畑、食べ物など

いなかのいいところが分かりました。

時田さんに「よそ者!」と言われても、

がんばる越(えつ)、つぐみ、とうさん、かあさんに感動しました。

はるか

『朝顔のハガキ』 を読んで

この本の主人公に送られてくる朝顔のハガキ、

だれから送られてくるのか、とても気になりました。

ハガキをおばあちゃんに見せたらやぶられてしまったと

書いてあったところを見たら、ますますだれが送っているのか気になりました。

もう死んでいる誠矢のおじいちゃんに会うところは、とてもふしぎでおどろきでした。

誠矢とお兄ちゃんの話にはとてもおどろきで、

やさしいお兄ちゃんだなと思いました。

この本はふしぎなことがいっぱいあって、おもしろかったです。

さき（ゆ）

『朝顔のハガキ』　を読んで

ハガキのおかげで、

知らなかったことがわかったのがすごかった。

私も、ひみつが分かるといいと思った。

ひまり

『朝顔のハガキ』 を読んで

私は、誠也と兄が仲直りするところが大好きです。
今まで部屋にとじこもり、家族に顔も見せなかった兄が
最後はしっかりと話せたところは、兄の良いところだと私は思いました。
誠也くんの友達、篤史くんはとっても心の広くて優しい人だと思います。
なぜなら、誠也が家に帰りにくくても、自分の家に
「大事なハガキを置いていいよ」と言ってあげていたからです。
そして「山口ボックス」まで作ってくれていたし、走るのは苦手なのに
ランニングをがんばっていました。自分の苦手なことをあきらめずに
がんばっていたので、すごい人だなぁと思いました。
私も篤史みたいな人になりたいです！！　　なつき

『朝顔のハガキ』　を読んで

おばあちゃんがとてもしょうげき的だった。

そこまでハガキをビリビリにしなくても・・・机を真っ二つに

切っちゃうなんて・・・と読みながらひどいなぁと思った。

梶野君の苦手な事へのチャレンジ、誠矢の行動力にはびっくりした。

私にはできないなぁ。

お兄ちゃん、引きこもりせず学校に行けたかな？

ゆうな

『本能寺の敵』　を読んで

戦国時代の生き方にびっくりしました。

私は、れきし本はあまり読まないけれど、

この本を読んで、他のれきしものの本を

読んでみようかなと思いました。

ひまり

『本能寺の敵』　を読んで

本能寺の敵という本はびっくりでいっぱい！

よし子の行き別れた娘が涼音というところや、

殺された明智は本物ではなく影むしゃだったところがビックリしました。

このような展開を予想もしていなかったので、

読んでビックリしてもらいたいと思います！

ゆうな

『本能寺の敵』　を読んで

光秀が信長をうったのは、しかたがないことなのかもしれません。
なぜかというと、信長が「外国をせめる。」と言ったから、
光秀は戦がなくなると思っていた夢がなくなってしまい、
このままでは戦が終わらないと考え、信長をうったからです。
たしかにどちらの言うことも分かりますが、理解しあっていたら
戦はなくなっていたかもしれません。でも、信長も本心は、
戦をなくしたかったけれど、それを忘れて心が悪心になっていたんだと思います。
光秀が最後、秀吉にうたれて死んだのは残念で、少し悲しいです。
ぼくは、たまに光秀が生きていたらどうなっていただろうと考える時があります。

こうへい

『本能寺の敵』　を読んで

とても感動的な物語だと思いました。

そして涼音にあった秘密に驚きました。

いろいろ書きたいことがあって、驚いたことばかりでしたが…

まだ読んでいない方もいるので、

ぜひ読んでほしいと思いました。

ななえ

『本能寺の敵』　を読んで

歴史の事実と想像をうまく組み合わせたところが面白かった。

今、大河ドラマで明智光秀のことを見ているから

想像がついてますます面白かった。

結末が残酷じゃなくて良かった。

だいと

『雨女とホームラン』 を読んで

先生が占いを信じなかったのは、昔つらい体験があったからだ。

人に左右されすぎない強い気持ちが必要だと思った。

ともか

『雨女とホームラン』　を読んで

「からかう」と「いじめ」のちがいは？

由樹は雨女とからかわれて、学校に行きたくなくなった。

それは、だれかにとってはいじめで、

だれかにとってはふつうのことなのかもしれない

からかうのってなんだろう？

ひまり

『雨女とホームラン』　を読んで

「里桜ちゃんは私と似ているな～」と思いました。

なぜなら、ゆうれいの話をされたらこわくなるし、仲良くなりたい子がいたら、

もっと話したくなるのが同じだからです。聖来ちゃんは、一人ぼっちで

お姉ちゃんをまっていた里桜ちゃんと一緒にむかえが来るまでまっていて、

やさしいなと思いました。私も聖来ちゃんみたいな人になりたいなと思いました。

私は、友達が本当にゆうれいが見える人だったら、信じると思います。

こわいけれど、ゆうれいだった人も本当は生きていたからです。

それを信じない人には、口出しできないと思います。

心の中でそう言いたいなと思いました。　なつき

『雨女とホームラン』 を読んで

「負けおばさん」や「負けおじさん」がいると

試合に勝てないと思ったけど、

「負けおばさん」や「負けおじさん」がいても、

野球の試合に勝ったから、勝負には関係ないと思った。

練習次第かなと思った。

ちさ

『雨女とホームラン』 を読んで

私はこの本を読んで、占いやうわさだけをたよっているより、
努力をしているほうがいいということを考えさせられました。
小山先生の言っていた、「『これは本物なのか』と
常に考えられる人間でいてください」という言葉が心に残りました。
これは自殺した親友がいたから言えることだと思いました。
自分で考えて信じれる大人になりたいと思いました。

ちさと

『赤毛証明』 を読んで

私は『赤毛証明』を読んで、ふつうとは何かよく考えさせられる話だと思いました。

私は人と髪の色がちがうだけでふつうじゃないというのはおかしいと思います。

けれど、主人公が髪の毛のことを他の人とちがうからとなやんでいた場面を見て、

私も他の人とちがうと不安になったり、なやんだりするのは、

だれにでもあることじゃないのかなと思いました。

もし私が主人公だったら、人とちがう髪の毛でも、

あまり気にせず生活していたかもしれないと思いました。

さき（ゆ）

『赤毛証明』 を読んで

「自分らしく生きる！！」

という言葉に、そうだなと思った。

一番好きなのは、

「とびらよとびら、新しい舞台へ登場サセタマエー！」

ひまり

『赤毛証明』 を読んで

「ふつう」について考えさせられた本だった。

ふとした疑問をそのままにせず、自分で解決しようとしていて

とても偉いと思った。

ゲニン（先生）の子どもも主人公のめぐと同じ

赤毛というのにびっくりした。

私はめぐのように行動できないかもしれない。

ゆうな

『赤毛証明』 を読んで

私がこの本を読んでいいなと思った（真似したいと思った）言葉は

「トビラよトビラ、新しいぶ台へ登場サセタマエー！」という言葉です。

とても悩んでいる時に、この言葉を使うと元気が出そうだと感じました。

私も「自分らしく生きよう！」と思います。

ななえ

『秘密のノート』　を読んで

私は、この本を読んで、最後のページで手がとまりました。

この本を読んで、もっと学校がすきになりました。

ゆみ

『秘密のノート』 を読んで

ジェリーは学校ではふざけて先生にあきれられていたけれど、
お母さんが悲しんでいる時は、やさしくよりそっていたところが
心がきれいな子だなと思いました。
ジェリーの本音が書かれている詩には、わたしの気持ちと
似ているなと共感する詩や、悲しいなと思う詩がありました。
秘密のノートには、いろんな思いが書かれていました。

ともか

『秘密のノート』 を読んで

やってもみないであきらめていい？

ジェリーの書いた「ひらく」という詩が、大好きになった。

“いつか”が“あした”になるのはいつ？

ひまり

『バウムクーヘンとヒロシマ』　を読んで

バウムクーヘンが日本に伝わったのは、知っていました。

だけど、１９１９年の３月４日に伝わってきたので、けっこう最近だと思います。

当時の日本人は、バウムクーヘンを食べて「おいしい」と言ってくれたけど、

今ではそんなに好きではない人もいるので、

その人によって味をかえるといいかもしれません。

でも、日本人が今こうして栄えているのは、

外国の文化のおかげなんだと思います。

こうへい

『バウムクーヘンとヒロシマ』 を読んで

ユーハイムは、ほりょとして日本につれてこられたのに、

日本人にやさしくしていて感心しました。

バウムクーヘンを食べてほしいという心が、

ユーハイムの支えになったのだと思います。

こと

『サンドイッチクラブ』　を読んで

「サンドイッチクラブ？なんだろう。」「サンドイッチを作る
クラブなのかな。」そう思ってこの本を手にしました。
サンドイッチクラブの正体は、110 ページまで読むと分かりました。
この本は、中学受験のために学習塾に通っている珠子と
アメリカの大統領になって、戦争のない世界を作りたいヒカリが、
葉真（ようま）から黄金のシャベルを奪還するため、サンドアートで対決する物語です。
最初は、葉真に勝ち目はなかった二人ですが、持ち前の頭脳で
いろんな工夫をして、葉真からシャベルを奪還できただけでなく、
珠子がヒカリと出会って、一皮むけて大人っぽくなったところに
二人の成長を感じ、心を打たれました。　ゆうか

『サンドイッチクラブ』　を読んで

砂の彫刻は、ふつうの砂ではできない。

そして、ちょこっとさわっただけで、簡単にこわれる。

これは、人も同じだと思う。

簡単な気持ちじゃ、すぐこわれる。

どっちも本気でいどむのだ！1

ひまり

『サンドイッチクラブ』　を読んで

“砂像 ”という物を初めて知りました。

一番心に残った場面は、おしゃぶりを見つけたシラベさんの友人から、

おしゃぶりについての話を聞いたところです。

砂は難民がいること、戦争があることを

教えてくれるのだと思いました。

しおり

『スイマー』 を読んで

海人(かいと)が自分でスイミングチームを作るのにおどろかされた。

だれがしっぱいしても「また次」と、その人をせめないのが

いいチームワークだと思った。

（読んだ後、自分も泳ぎたくなって、プールに行った。）

ともか

『スイマー』 を読んで

私もスイミングをやっていて、航と同じように

無視されたことがあった。私だけあがると、いつもなる。

でも、航みたいにちがうところで泳ぐことで、よくなるんだなと思った。

合言葉は『一人で勝つのは、すごい。

でも、みんなで勝つのは、強いぞ』

ひまり

『スイマー』 を読んで

当たり前だと思っていたことが当たり前じゃなくなって

スイミングがみんなでやるものだと気付き、

みんなで力を合わせて

県大会優勝を目指すところが良かったです。

だいと

『あおいの世界』 を読んで

カナダに転校することになり、不安なあおいに対してお母さんがよく言う言葉、それは「なんとかなる」でした。あおいは、なんかいいかげんなその言葉が、あまり好きではありませんでした。でも、カナダでできた新しい友達は、「なんとかなるとは、どんなことを選んでも、最後はハッピーエンドということだよ」とあおいの気持ちを変えました。私は「友達の力は大きいな」と思いました。違う国の人と出会うことで、あおいは新しい発見をたくさんしました。また、英語も話せるようになりました。カナダに引っ越して成長したあおいは、立派だと思います。私は四月から「中学校」という今までとはちがう環境の中に入っていきます。不安だけを持って何もしないのではなく、あおいのように、少しずつでも成長していけたらいいなと思います。　　ゆうか

『あおいの世界』 を読んで

私は『あおいの世界』を読んで、とても共感できる話だと思いました。なぜかというと、ふつうに読んでも引っこしって大変なんだなと思うかもしれませんが、私も千葉県から福井県に引っこしてきたので、引っこしの怖さがよくわかります。しかも、あおいは日本から外国に行って、英語も話せないし、文化を知らないので、とくに大変だと思います。私も引っこした後すぐは、友達できるかなぁとか、とにかくたくさんのことが不安だったので、あおいに共感できることがたくさんありました。カナダのいろいろな文化が知れて、あまり知らなかったことや考えなかったことがわかってよかったです。

私はミセス・マケンジーがあおいにアメを食べさせただけで、マケンジーとアディソンの言葉がわかるようになっていたのが不思議でした。きっとアメを食べて、あおいの不安が解消されたんじゃないかと思いました。とてもステキな魔法だと思いました。他の地域に行くと、いろいろなものが、ちがう視線から見えて、いいと思いました。あおいの生む想像力がステキな結果をむかえていていいなと思いました。　さき（ゆ）

『あおいの世界』 を読んで

日本では「クウソウ（空想）」していると、

「キモチワルイ」「バカみたい」と言われるかもしれないけど、

カナダでは「いいねぇ」になる。

何がちがうと、思うことが変わるのかな？

国がちがうから？漢字のちがい？

ひまり

『あおいの世界』 を読んで

空想ばかりしていたあおいは、

日本でいじめられていましたが、カナダにひっこして

自分の空想をみとめてくれる友達に出会いました。

自分なりに生きることを決めました。

わたしは、自分らしくするのは、かっこいいと思いました。

こころ

『あおいの世界』 を読んで

「いじめ」はとても嫌で寂しいことだと思います。

私もあおいと同じで空想が大好きです。

「こうなったらいいのにな」「こうなったらおもしろい！」などを想像すると

嫌な現実から逃げて、良いように世界は傾きます。

でも、空想だけでは目の前の現実は変わらず辛いことがたくさんあります。

辛くても「乗り越えていけばその先に必ず良いことが起きるから、

現実の世界に戻る。」と言ったあおいは強いと思いました。

頑張っていれば『なんとかなる。』

私も苦手な勉強を頑張ろうと思いました。　　ななえ

『フレンドシップウォー』　を読んで

この本は、ボタンがきっかけで親友と距離をおくようになったグレースが
いろいろあったけれど、五分ほどの話し合いで仲直りし、警察をまきこむような
事件になったグレースの行動も、親友のエリーとハンクが解決してくれるという、
親友の大切さについて語っている物語です。
この本を読んで、「親友でもけんかすることはある。でも、親友だからこそ
仲直りしようと思えるんだな」「親友の力ってすごいな」と思いました。
また、グレースが、エリーとハンクと事件を解決したように、
親友だからこそ考えつくアイデアだってあると思います。
だから、私も友達を大切にしたいと思いました。　　ゆうか

『フレンドシップウォー』　を読んで

ボタンには、それぞれ物語があることが分かりました。

そして、グレースはエリーとハンクが友達でよかったと思いました。

理由は、グレースが問題を起こした時に、

それには関係がなかったのに、校長室に来てくれて、

グレースをかばってくれたからです。

しおり

『フレンドシップウォー』 を読んで

グレースは自分が悪かったとみとめ、

戦争中（ケンカ）のエリーとの話し合いを選びました。

（そもそも友達とこんな大ゲンカしたことないけれど）

わたしだったら、さいごまで意地をはって

なかなおりできないと思います。

友情はすてきだなと思いました。

こころ

『白き花の姫王(おおきみ)』 を読んで

読めば読むほど引きこまれていきます。

主人公の音琴(おとこと)がたびたびよむ歌も美しく、高学年の子にオススメです。

いろいろな人物に助けられながら、最後にしゃべることができなかった

音琴(おとこと)がしゃべり、私もうれしくなりました。

昔の人の地位や言葉も出てきてむずかしいので、

5年生になったらまた読もうと思います。

ふみか

『白き花の姫王』　を読んで

このお話は、ノンフィクションではありませんが、

ノンフィクションのように複雑で繊細なお話です。

カバーそで部分に書いてあるあらすじを読んだ時に、

もうこの本に魅了されてしまいました。

「ルタ」という宝剣が、本当は・・・あの人の元にあるとは思いませんでした。

おもしろくて一気に読んでしまい、最後は主人公の姿にほっとしました。

ななえ

『おじいちゃんとの最後の旅』　を読んで

この本は、ウルフとおじいちゃんが病院をぬけ出し、おじいちゃんの最後の思い出を作るため、大ぼうけんする物語です。旅では、天国でおばあちゃんに会った時に、きたない言葉を使わないようにするため、練習をしたり、おばあちゃんとの大切な思い出の品の数々を目にしたりします。

みんなには秘密の旅から帰ってきたウルフは、この旅でおじいちゃんが死ぬかもしれなかったという事実を耳にします。おじいちゃんは、このことを分かっていたと思います。もう少しで死んでしまうと分かっていたから、どうしてもおばあちゃんとの思い出を取りに行きたかったんだと思います。

最後におじいちゃんは亡くなりますが、ウルフが最後、二人の思い出を思い出すシーンでは、私も二人の旅を思い出し、胸が痛くなりました。　　ゆうか

『おじいちゃんとの最後の旅』　を読んで

私のおじいちゃんは、毎日何かを忘れる。

去年はいとこのことを忘れ、今年は家の場所を忘れた。

この話のおじいちゃんみたいに、きたない言葉も使う。

でもそれはきっと、その言葉になにか思いがあると思った。

この話で、一つ一つの言葉って…と考えるようになった。

ひまり

『おじいちゃんとの最後の旅』　を読んで

おじいちゃんはおばあちゃんが作ってくれた「コケモモのジャム」を
とても大切にしていました。それは、おじいちゃんが
おばあちゃんを本当に愛していたからだと思います。
『「コケモモのジャム」におばあちゃんの一部が入っている』
という表現に感動しました。
おじいちゃんは、きっと天国で綺麗な言葉を使って、
おばあちゃんと幸せに暮らしていると思います。

ななえ

『かけはし』 を読んで

―朝鮮人だから―、―日本人だから―

この言葉はだれもがきずつくと思う。

―女だから―、―男だから―

こうなるとだれもが一回は言われたことがあると思う。

つらかっただろう。

そんな、～だからなんて言葉は、言わないといいと私は思った。

ひまり

『ブラックホールの飼い方』　を読んで

私は2年生のときに、おじいちゃんを急な病で亡くしました。

そのときは分からなかったけど、すごくやさしくしてもらったんだと

今思いました。理由は、おじいちゃんとの思い出がたくさんあるからです。

物や人は、たとえ消えてしまっても、思い出は心の中に

いつも一生残っています。

いやなことでも、考えてみるといいことにかわるのではないでしょうか。

ひまり

『ブラックホールの飼い方』 を読んで

嫌なものが消えたり変わってしまうと、

その良いところや大切なことが見えてくると思いました。

ブラックホールのラリーと出会った事で、

パパなどの事と向きあえたので、良かったと思いました。

しおり

『ライラックのワンピース』 を読んで

うまく言葉にできない大切な思い出や、

そのときの気持ちは、どこへいってしまったのだろう？

心がキュッとせつなくなるような本にも、たくさん出会ったのに、

忘れてしまっているのだろうか？

昔の思い出は、思い出すことはできないのか？

考えてみたら、ライラックのワンピースみたいな出会いが

あるかもしれない。　　ひまり

『ぼくと石の兵士』　を読んで

子どものオーエンが頑張って大切な物を守ったことに感動しました。

大人に反対することは、とても勇気がいることです。

もし自分が大事にしていた物を壊されそうになっても、

きっと大きく声をあげて反対はできないと思います。

この本は表紙の絵がとてもかわいいです。

ななえ